

高速道路へのアクセスがより早く

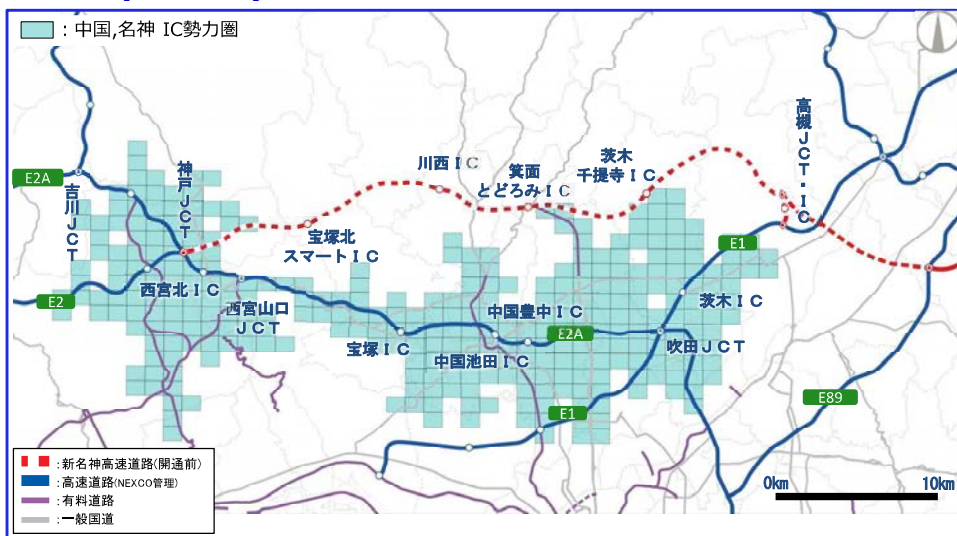


◆ 自宅から15分以内に高速道路を利用できる方が39万人増えました

新名神(高槻JCT・IC~神戸JCT)が開通したことで、**自宅から15分以内に高速道路を利用できる方が39万人(1.2倍)増加**しました。沿線にお住まいの方々からは、**目的地まで早く行けるようになった**、ICが近くにできて**高速道路を利用することが多くなった**などのお声をいただいております。

15分以内に高速道路を利用できる範囲

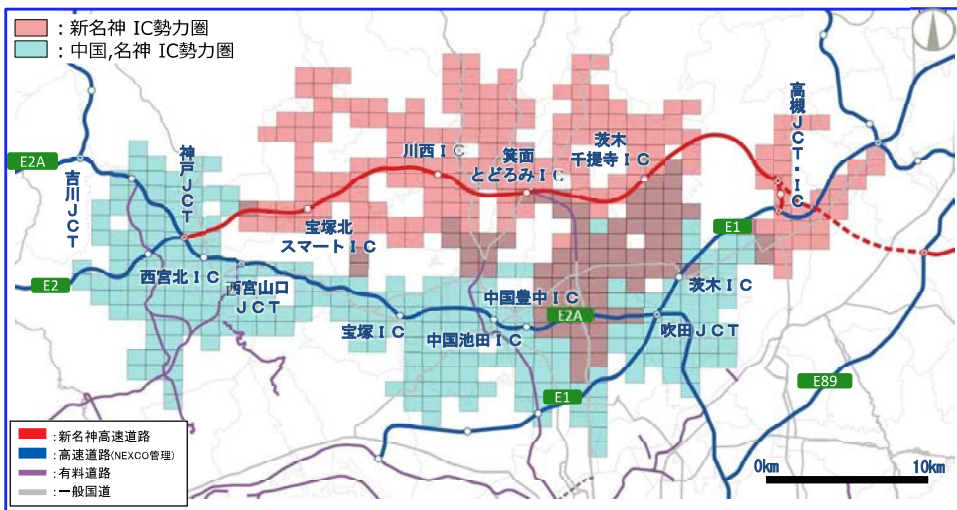
開通前(2017年)



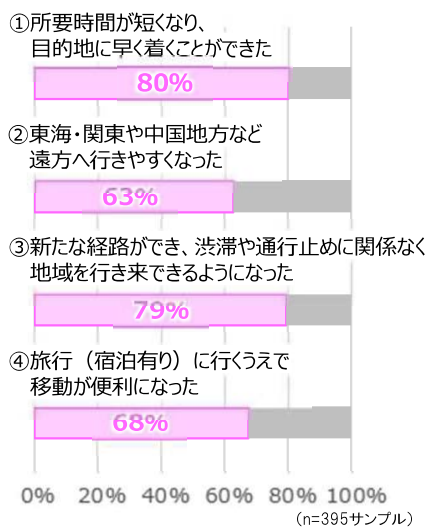
高速道路へ15分以内にアクセスできる人数



開通後(2022年)



新名神ができたことに関する Webアンケート結果



猪名川町
在住の方

開通前は山道で、中国道まで40分以上かかりましたが、開通後は新名神まで5分となり極めて楽になりました。

居住している近くに高速道路ができて、旅行や趣味のアクセスが良くなり非常に喜んでいます。



豊能町
在住の方

※webアンケート調査(2022年12月実施)

※時間圏域:ETC2.0プローブデータ (開通前)2017年7月1日~7月31日、(開通後)2022年7月1日~7月31日
※拡大人口:2015年及び2020年国勢調査のメッシュ人口より集計



子どもたちの校外学習が充実

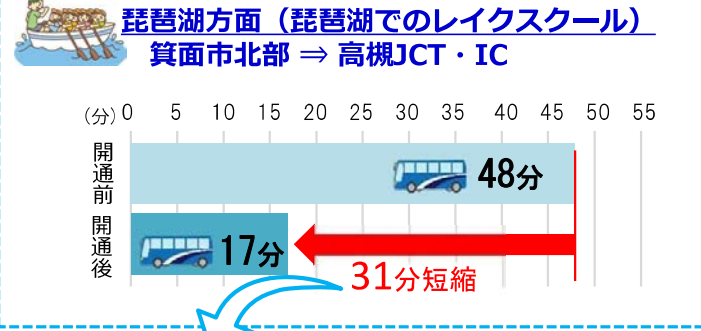
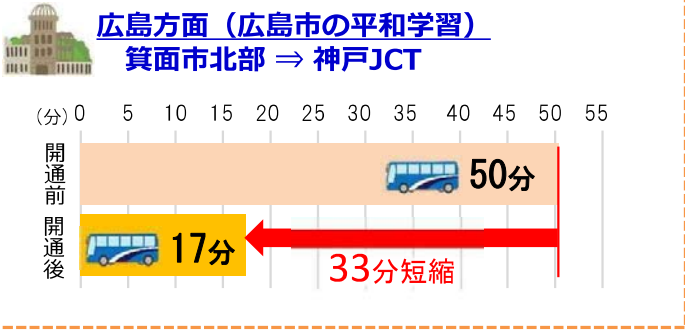
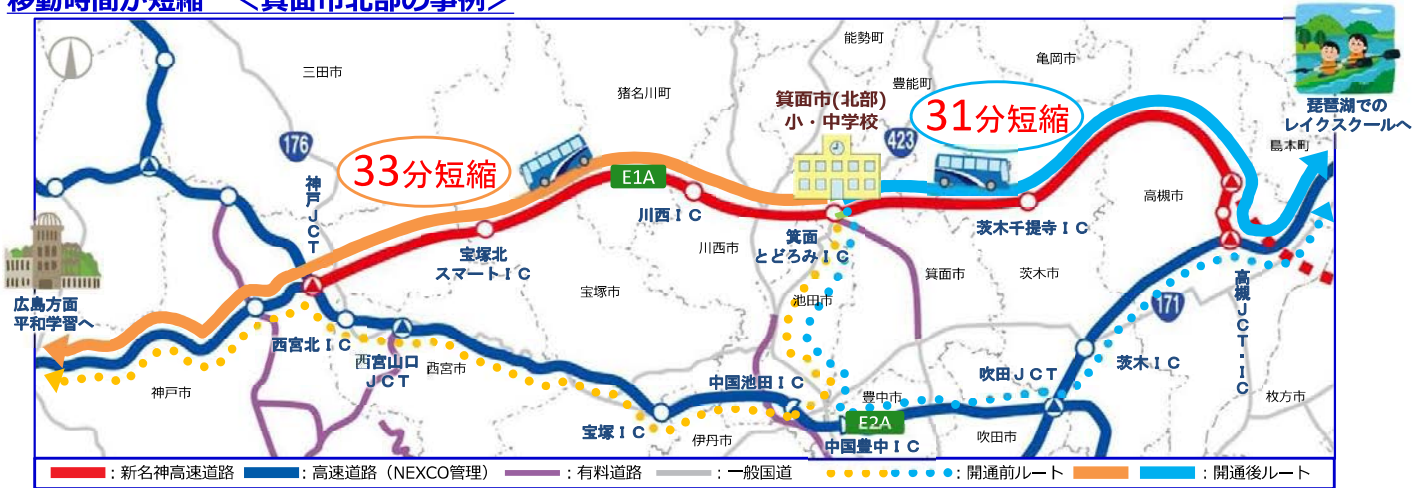


◆ 小・中学校の校外学習で新名神が使われています

新名神(高槻JCT・IC～神戸JCT)の開通によって、小・中学校の校外学習にかかる移動時間が**最大60分短くなり、現地での活動時間が長くなったことで、子どもたちの教育の機会が増えました。**

現地での活動時間が長くなりました

移動時間が短縮 <箕面市北部の事例>



※所要時間:ETC2.0フローデータ
(開通前)2017年7月
(開通後)2022年7月

現地での活動時間が増加

小・中学校各学年の校外学習で新名神を使用しています。移動時間が短縮され、現地での活動時間が大幅に増加しました。バス移動の時間が短縮されることは、**児童の疲労軽減**にもつながります。



箕面市

※自治体ヒアリング調査(2022年8月実施)



地域医療を支えています



救急搬送の搬送時間短縮や患者の負担軽減に貢献しています

新名神(高槻JCT・IC～神戸JCT)は医療機関への**救急搬送にも利用**されています。

高速道路を利用することによる**搬送時間の短縮**のほかに、一般道と比較して車両の振動が少なく急制動やカーブの影響を受けにくいいため、**患者への負担の軽減**などの効果が現れています。

新名神利用による搬送時間の短縮

新名神を利用した救急搬送実績 (2018年3月～2021年12月)

自治体	主な搬送先医療機関	搬送件数(新名神利用)
宝塚市	宝塚市立病院	148件
箕面市	愛仁会 高槻病院	73件
猪名川町	大阪大学附属病院 国立循環器病研究センター	30件
三田市	医療法人晋真会 ヘリタス病院	19件



※自治体ヒアリング調査(2022年8月実施)

救急搬送ルートと搬送時間の短縮



※3次(第三次救急医療機関/救命救急センター): 重症及び複数の診療科領域にわたる、すべての重篤な救急患者を、原則として24時間体制で必ず受け入れる医療機関(厚生労働省)

※自治体ヒアリング調査(2022年8月実施)

新名神を利用することで**搬送時間が短くなり、早期に患者を医師へ引き継ぐ**ことができました。



箕面市

宝塚北スマートICを救急搬送に活用しています。**傷病者の負担軽減**のために、揺れや振動が少ない新名神を利用しています。



宝塚市

※自治体ヒアリング調査(2022年8月実施)

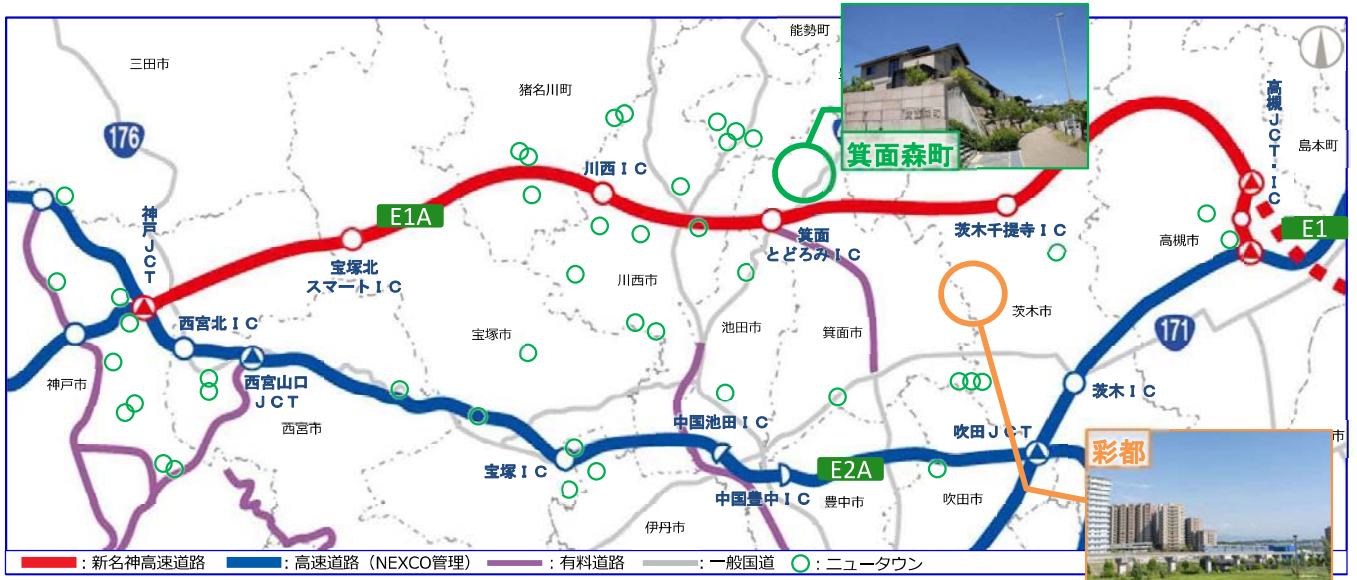


新名神沿線の宅地開発が進んでいます



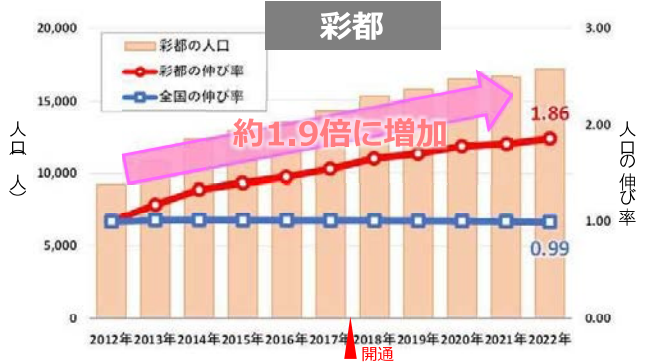
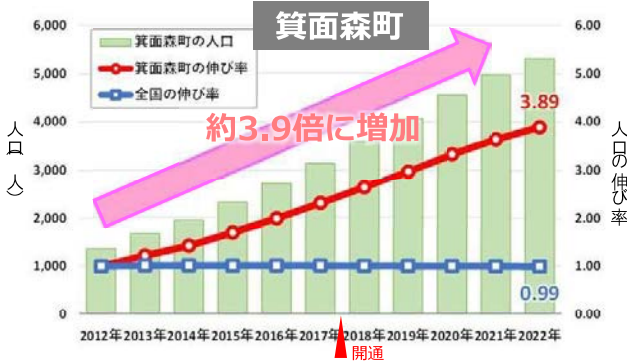
◆ 新名神沿線の新規開発エリアは人気上昇中

新名神沿線に位置する箕面森町や彩都などの新たに開発されたエリアでは、**人口が増加しています**。住宅地の地価も、**高い水準で推移**しており、今後の発展が期待されます。



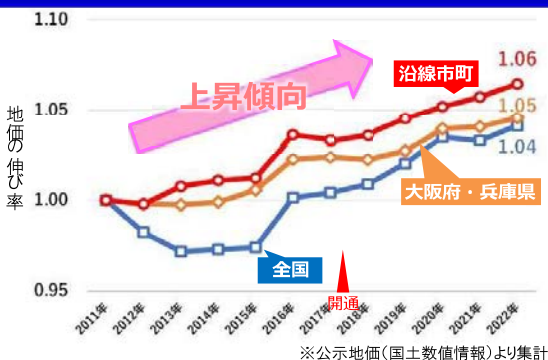
※【ニュータウン】国土数値情報(国土交通省,2013年度時点)より集計

箕面森町と彩都の人口の伸び率



※住民基本台帳(総務省)より集計

沿線市町の平均公示地価(住宅)の推移



※公示地価(国土数値情報)より集計

新名神沿線の彩都や箕面森町では、**着実に居住人口が増加**しています。箕面森町では、全ての区画が完売となり、居住人口は5千人以上まで増加。彩都でも、448haがまちびらき済みとなり、居住人口は1万7千人以上まで増加するなど、**まちづくりの機運が高まっています**。

※自治体ヒアリング調査(2022年8月実施)



大阪府

